



樋野先生の「新渡戸稲造記念センター長ご就任」と斎藤瞬君のお誕生日を祝って  
2019年6月15日～16日 於：万座温泉日進館 がん哲学外来 in 万座 市村 雅昭

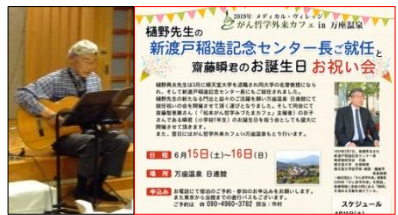
万座温泉日進館にて去る6月15日に樋野先生の「新渡戸稲造記念センター長ご就任と斎藤瞬君のお誕生日お祝い会」、翌16日は「がん哲学外来カフェ in 万座」を1泊2日間で開催させて頂きました。

日進館の所在する群馬県では来年7月4日に第10回がん哲学外来コーディネーター養成講座が、5日は第9回がん哲学外来市民学会群馬大会が開催されます。大会長・伊勢崎市民病院外科診療部長の片山和久先生の下、県内の有志により昨年より準備委員会を結成しその準備に鋭意携わって参りました。7月7日の埼玉大会終了後は実行委員会として以後を展開して参ります。それと同時にこの実行委員会は県内各地の沼田、万座、前橋、伊勢崎、渋川、富岡の7地域10か所に在る各々の「がん哲学外来メディカル・カフェ」を統一し、群馬支部として立ち上げ互いに交流することにより助け合い、情報交換等行い、「がん哲学外来」の制度認識を高め、群馬地区のみでなく県外の各団体ともより深く交流を図る所存です。

このように活動を続ける群馬地区のメンバー達と先生を万座温泉にお呼びしてお祝いをさせて頂きたいとの気運が高まり先生のお祝いと斎藤瞬君のお誕生日のお祝いを県外からの参加者も含め約50名でさせて頂きました。

初日の祝賀会は和やかな中に進み、星野先生ご夫妻による童謡唱歌の合唱がより宴席を盛り上げ、小諸の土屋芳美先生たちのダンスで最高潮となりました。

翌日のカフェでは星野先生の司会で映画「がんと生きる～言葉の処方箋」に携わった7名のシンポジストの方達がその思いを各々発表されましたが、その個性的な面を見事に引き出される星野先生の手腕には毎回敬服いたします。そして2日間が盛会裡に終了しました事は皆様方のご協力の賜物です。改めて感謝致します。



ひとりひとりが映画の主人公です！

ながれやまがん哲学外来カフェ 春日井いつ子

樋野先生より10歳も上だということにあのパワーの源は何処から？と感じつつ、また星野先生とお会いするのは喜びなのですが「そうだ！原稿依頼がセットだった」とやや憂鬱に…、でも痛む腰を擦りながら口も身体も良く動く星野先生の姿に励まされてパソコンに向かっていきます。

野澤監督は年齢配分のバランスも考慮して4人を選んで下さったと思います。中でも瞬君の可愛らしさ、航大君の存在は大きい。高校生にしてカフェではしっかりとした対応、私生活ではクスツとしてしまう飾りけない姿。若い斎藤智恵美ママの美しさに気品も添えて松本の桜の映像は見事でした。

「ながれやまがん哲学外来カフェ」では映像のおふたりが天国に召されています。試写会で目にしたスクリーンの中のお姿に只々涙でした。しかし、おふたりの人生のよすががカフェであった事は間違いなく、あの笑顔がそれを物語っています。星野先生の言葉をお借りすると出演して下さいましたおひとりおひとりがこの映画の主人公なのです。シンポジウムの最後に星野先生から「今後の抱負は？」と尋ねられましたが、不覚にも疲れと眠気でおおとして返答できず、でした。角田万木ちゃんから「映画に出演しただけで充分！」の言葉に救われています！。樋野先生は二日間、終始穏やかで優しく、事あるごとに「いいねえ、凄いいねえ」を連発していました。でも一番凄いいのは、樋野先生、先生ご自身ですよ！。

日常が切り取られているからこそ

松本がん哲学みずたまカフェ 斎藤智恵美

突然届いた佐久ひとときカフェの星野昭江さんからの一通のメール。「ドキュメンタリー映画への出演はできますか？」でした。ニュースレター編集人のお仕事で出掛けた先で星野昭江さんと野澤和之監督は出会ったそうです。想像もしていなかったメールの内容に、驚き、「え？」と何度かメールを見直しましたが、「やってみます」が私の答えでした。映画の撮影は、日常を切り取る形で行われました。何気ない日常が本当に映画になるのかと思っていましたが、完成した映画を観て、日常が切り取られているからこそ、心に届くものがあることを知りました。私は、この貴重な機会、映画の撮影を通して、自分と向き合い、整理する時間を頂いたように思います。このような機会を頂き、本当に人生の良き思い出となりました。

映画上映会 シンポジウム  
～病気でなくても病人でない生き方を変える～  
8月18日(日) 松本市Mウイング  
松本市Mウイング TEL.090-2141-1524

「がん哲学外来」が果たしてどのような映画になるのだろうか？樋野先生、言葉の処方箋、がん哲学外来カフェがどのように描かれるのだろうか。不安と期待の入り混じった気持ちで試写会に参加。見終わった後、不安は吹き飛びヒット間違いなしという確信に変わりました。

5月3日。映画初日から大盛況で上映は始まり満席が続き、延長、再延長になりました。当日行ってもネット予約ですでに席はないと分かり、前売り券を購入して頂いた方への責任を果たさなければなりません。その日から、満身創痍の座席予約ミッションが始まりました。田寺プロデューサーも懸命です。日々映画館に通う私に色々と協力して下さいました。

前売り券の最後の1枚までミッションを完遂することができ、たくさんのご縁と愛を頂きました。私には最高のプレゼントでした。この映画はこれからたくさんの方々と共に後世に生き続けていくことでしょう。

### 目白カフェ 森尚子さん



### ダンス教室 土屋芳美さん



6/15(土)～16(日)に万座・日進館さんで開催された「がん哲学外来カフェ in 万座温泉」に参加させて頂きました。初日の夕食会では、リクエストもないのに(笑)、勝手に同行のダンス教室の生徒さんと4曲も踊らせて頂き、皆様と楽しい時間を過ごさせて頂きました。

翌日16(日)午前の部では光栄にも、座長・星野先生よりシンポジストを指名されたのですが、直前に観た「がんと生きる～言葉の処方箋」のダイジェスト上映に感動して自分でもビックリする位、涙が止まらなくなり興奮状態で、映画&中村航大君の素晴らしさを語っただけで、あまりお役に立てなかったかと思えます。

私が「がん哲学外来」に関わらせて頂くようになってから、早や5年近く。まだまだよくわかってなくて右往左往の日々ですが、「がん哲」で出会った全ての方が好きです。皆さんに出会えたお蔭で私の人生が更に楽しく深く、強く、忙しく(笑)になりました。本当にありがとうございます。「♪幸せは歩いて来ない だから歩いて行くんだよ～♪」

### 池袋帰宅途中カフェ 角田 万木



私にとって樋野先生の言葉は難しく、自分が辛くなった時によりやく意味が分かる事がまだまだあります。ふと、もう私に出来る事はないのかも…と思いはじめていたら、星野さんから都内のカフェ一覧表作成のお手伝いを頼まれました。映画「がんと生きる 言葉の処方箋」を観てカフェに参加したいと思った方にこのカフェ開催一覧リストが届けばと思い、嬉しかったです。私はアナログなので、詳細を一度紙に書き移してからの作業でした。少しお待たせしてしまいましたが、初めての方が見たら分かりやすいと思うチラシだったり、少し分かりにくいと感じたり、主催者のフルネームが載っている方が連絡しやすいかもと思ったり、とても勉強になりました。

私事ですが、去年は体調を崩し救急搬送され、1ヶ月ちょっとの入院でしたが、退院後は脱水による記憶障害のせいか日常生活が何一つ出来なくて大変でした。今ではすっかり元気になったものの、いろいろな事を忘れていて不安で自信のない日々となっています。今回の万座に参加して振り出しに戻り、人の話を聴く事から始めたいと思います。

### ひとときカフェ 丸山 範子



佐久ひとときカフェのスタッフは皆さんがやり手なので人前で話すことが苦手なのをいいことに影に隠れるように裏方で活動してきた私は心の準備もなくシンポジストとして前に座ることになりました。緊張でお伝えしたいことの半分も話せないどころか、何を話したかも定かではなく、皆さんに助けられフォローしていただきました。

シンポジウムではそれぞれの地域での映画での活動や裏方で話や想いを聞け、それも踏まえた上で改めてもう一度映画を観たいと思いました。

去る3月20日。長野県山形村「アイシティシネマ」で上映された「がんと生きる～言葉の処方箋 (abn『信州がんプロジェクト』協賛)」について。「あうんの家」での長期にわたる取材を通し、abn制作部の中村あゆみさんが「がん哲学外来カフェ」の活動に強く共感し、ご自身の熱い思いから会社を動かし自らカフェをも立ち上げた結果、市民無料招待の上映会が実現しました。会場は満員、その後も映画を観たいという声をよく聞きましたが「松本みずたまカフェ」を立ち上げ今年の夏で2周年を迎える斎藤智恵美さんのカフェイベントとして上映会が企画され、午後は樋野先生を迎えてシンポジウムが開催されるそうです。

映画会のお知らせです。

会場：松本市Mウイング 日時：8月11日(日) 午前10時～ 1,500円

## 死生観に触れるということ

東村山がん哲学外来カフェ 大弥 佳寿子

主人と主人の母を誘って参加しました。家族と共に「宴」を楽しみながらお祝い出来たことは大変嬉しく良い思い出になりました。膝に痛みを抱える 90 歳の義母も「まごわやさしい」のお料理に舌鼓を打ち、白濁の湯を満喫しました。まさにここがメディカル・ヴィレッジになることを彷彿させました。

さて、編集長・星野さんからの原稿依頼は、「シンポジウムと映画について」です。樋野先生の講演から始まり、映画「がんと生きる 言葉の処方箋」のダイジェスト版を鑑賞した後、映画に出演された方や上映にあたって献身的に広報活動に関わられた方など 7 名のシンポジストの皆さんのお話は、それぞれの想いが込められ感動しました。映画と共に皆さんのお話が私の心の奥の井戸の水を汲み上げてくれたのです。この映画をより多くの一般の方に観てもらいたいと思います。それは日本人が遠ざけていた「Quality of Dying and Death」(死の質、死生観)にふれて、今を生きる命の輝きや希望に溢れているからです。

## 樋野先生&瞬君 おめでとうございます！

東久留米メディカルカフェスタッフ 角田 則明



樋野先生。新渡戸稲造記念センター長のご就任おめでとうございます。瞬君。7 才の誕生日おめでとう。

今にして思えば日進館に行くきっかけは、東久留米メディカルカフェに何度か参加させて頂き多少はその雰囲気慣れた頃に樋野先生からお声掛けして頂いたのがそうです。日進館のシンポジウムならびにカフェに参加させて頂き早 6 回目となりました。カフェの前後には温泉に入れる事、景色も抜群で身も心もリフレッシュ出来幸せな一時を過ごせる事が最大の特徴です。

樋野先生は順天堂大学をこの 3 月で退職され少しはゆっくり過ごされるかと思いましたが、4 月からは新渡戸稲造記念センター長に就任され益々お忙しい日々を送られていられるのではと危惧しています。これからは、種を蒔くペースを少しは緩められてはと感じております。

齋藤瞬君と初めて会ったのは 1 年ちょっと前だと記憶しています。シャイな面は変わっていませんが、身長も伸び、顔立ちもハッキリとしてナイスガイに成長しているので、これからの成長がまだまだ楽しみだと思いました。メディカルカフェで出会った方々とひとときを共に過ごし、互いに学び合い、成長出来るこの環境をこれからも妻と共にさりげなく大切にしていきたいと思いました。

## 全員主役のシンポジウム

お茶の水メディカル・カフェ in OCC リピーター 森 和広

万座温泉日進館で、樋野興夫先生の新渡戸稲造記念センター長ご就任と、齋藤瞬君のお誕生日をお祝いする会が開かれました。日進館では、昨年の樋野先生お誕生日祝賀会と共に、がん哲学外来のエッセンスを舞台化した「人生ピンチヒッター～空っぽの器～」の公演が行われ、クリスマス祝いの樋野先生公開講演で Medical Village 構想が語られました。ここは樋野先生とご縁のある地です。祝賀会では、健康に配慮された「まごわやさしい御膳」を楽しみながら、土屋芳美さんらの情熱あふれるダンス、星野ご夫妻によるギターと歌の演出で盛り上がりました。ケーキと参加者一同の歌による祝福を受けた瞬君は、挨拶をしながら会場を回りました。樋野先生ご自身による玄人はだしのカラオケ独唱にデュエットと、宴は続いたのでした。

今回の万座イベントではシンポジウムも開かれました。テーマは、樋野先生とがん哲学外来カフェを追った野澤和之監督作品映画「がんと生きる 言葉の処方箋」。出演者を含むシンポジストから、映画にまつわるエピソード、魅力、裏話などたくさんのお話が出ました。各地での皆さんの展望も語られました。全員主役で語る、充実感の残るシンポジウムでした。

## まさに「人生いばらの道 にもかかわらず宴会」

大弥 雅昭

「がん哲学外来カフェ」の活動を通じて、平日頃より妻の佳寿子が皆さんにお世話になり、ありがとうございます。私は、平日は仕事、週末は実母の介護サポートと追われている身ではありますが、佳寿子は乳がんの治療を続ける中、この活動に生きがいを感じており「病気であっても病人でない」生活を送れていることに樋野先生をはじめ皆さんに感謝している次第です。

今回、万座温泉・日進館において、樋野先生の新渡戸稲造記念センター長のご就任の祝賀会と、松本でカフェをされている齋藤さんの息子さん(瞬君)のお誕生日会が開催されるとのことで、実母を連れて一緒に参加させて頂きました。皆さんの集う場に 90 歳の高齢の母はどうかと心配しておりましたがその心配も杞憂に終わり、和やかな雰囲気の中、食事を愉しみ、歌とダンスの披露を満喫していました。佳寿子がよく口にする「人生いばらの道、にもかかわらず宴会」の言葉が浮かび、私たち家族にとっても良い思い出が増えました。

白根山は警戒レベル 2 とありましたが、翌早朝には爆睡する母と佳寿子をそのままに温泉周辺を一人散策に出掛け、標高 1800m からの眺めと清々しい空気を思いっきり堪能しました。この場をお借りしまして恐縮ですが今後とも佳寿子のことをよろしくお願い申し上げます。